寄贈図書の紹介

編集委員会

東北大学災害科学研究所教授今村文彦監修・火箱芳文制作統括
『大津波・巨大地震に負けない！最強防災＋（プラス）生き残る術（すべ）』

静岡県から宮崎県にかけて、この先30年以内に約80％の確率で南海トラフ巨大地震発生の危険が高まっているほか、北海道では千島海溝巨大地震、青森県から岩手県では日本海溝巨大地震による大津波の発生が警告されています。

明日起きてもおかしくない、その災禍から逃れる術を身に付け、巨大津波に襲われても、大火災に見舞われても、絶対に生き抜き、大切な人を守ることが必要です。生死を分けるのは、体力差でも、運の良し悪しでもなく、「知っていたかどうか」「考えたことがあったかどうか」「すぐに行動に移せたかどうか」が左右します。

本書は、今村文彦東北大学災害科学研究所教授が監修し、火箱芳文陸修偕行社会長が制作を統括して、陸上自衛隊の全面協力を得て編集されました。

「防ぐ」「逃げる」だけではなく、確実に命をつなぐための知識と知恵、技術と希望を、豊富なイラストと写真で具体的に説明し、大人から子供までわかりやすい、例え被災しても再び穏やかな日常と笑顔を取り戻すための一冊です。

目　次

第１章　準備の章
襲来してくる津波に備えて
第２章　覚醒の章
南海トラフ巨大地震発生→大津波警報発表！
第３章　決断の章
津波から生き残るための避難を開始！
第４章　行動の章
津波に巻き込まれても、生き抜く！
第５章　生存の章
流されたあとの「助かり方と、助け方」
第６章　希望の章
避難場所・避難所で生き延びる！
第７章　生還の章
大地震による火災・大噴火にも負けない



フォルドリバー　１５００円（税別）

陸修偕行社　現代戦研究会
『現代戦研究２０２６』

「現代戦研究」は、今年で４回目の発刊となりました。本書は、かつて我が国の防衛・安全保障の最前線に身を置き、その現場を知り尽くした幹部自衛官たちが、退官後もなお弛まぬ探究心と危機感を持って研究を続け、現代における戦争の実相を抉り出すことを目的としております。

今、我々を取り巻く世界はかつてない激動の時代を迎えています。ロシアによるウクライナ侵攻は４年におよび、イラン情勢をはじめとする中東の緊迫化は、冷徹な国際情勢の実情を我々に突きつけ続けています。さらに、現代の戦争は陸・海・空という従来の領域に留まりません。宇宙、サイバー、電磁波といった「新たな領域」における戦い方の研究は、今や一刻の猶予も許されない喫緊の課題となっています。

こうした時代背景を踏まえ、今年は９名の執筆者が、それぞれの研究テーマについて寄稿いたしました。

目次

１　インテリジェンス活動におけるＡＩの軍事活用
―オールソース・インテリジェンスの重要性―
佐々木　孝博
２　更なる自衛官の処遇改善について
髙田　克樹
３　極東の戦略的安定性と北海道の地政学的再定義
―「北の防波堤」から「Hokkaido Gateway」への転換―
住田　和明
４　グレーゾーン常態化と新たな抑止思考
―攻撃（侵害）の成立を阻止する抑制―
田中　達浩
５　バイデン政権からトランプ政権へ
―米国の安全保障はどう変わったのか―
山根　寿一
６　中東情勢と日本の教訓
―イスラエルの対テロ戦争に学ぶ―
小川　清史
７　安保三文書が見落とした「死後の安全保障」
―「名誉の循環」による国家責任の制度化を―
本松　敬史
８　台湾の無人機運用と生産構想
―台湾有事に備えた非対称戦略と国際協力―
城戸　正志
９　北朝鮮軍のウクライナ戦争派兵記録
鈴来　洋志



アマゾン　３７００円（税込み）
閲覧希望の方は編集委員会までご連絡ください。
メルアド：henshu@rikushukaikoshaor.jp
電話：03－6380－0623